



八戸市の今と未来

～より強い より元気な
より美しい 八戸を目指して～



八戸市長 小林 眞

1

「八戸」が注目された 2012年



① 光星学院高校
三季連続甲子園準優勝！

② 伊調馨選手（63kg級）、
小原日登美選手（48kg級）
ロンドン五輪で金メダル獲得！

③ B-1 八戸せんべい汁
悲願のゴールドグランプリ！



2

八戸市の概要



- 八戸市は、人口約23万7,000人、青森県南東部に位置する県内第二の都市である。
- 東北新幹線や東北縦貫自動車道八戸線、八戸港(重要港湾)、三沢空港、本州と北海道を結ぶフェリー等、北東北における陸・海・空の交通結節点となっている。
- 県内最多の商圏人口約67万人を擁し、岩手県北も含めた広域商業を担っている。

①人 口:約23万7,000人(H22国勢調査)

【青森県第2の都市】

②商圏人口:約67万人(H22)

【青森県南～岩手県北～秋田県北東部】

③商品販売額:8,254億円(H19)

【青森県第2位】

④製造品出荷額等:5,036億円(H21)

【北東北最大の工業都市】

⑤八戸漁港水揚げ高:12.1万トン(H23)

【全国有数の水産都市】

⑥コンテナ貨物取扱量:30,846TEU(H23)

【東北第3の港湾物流都市】

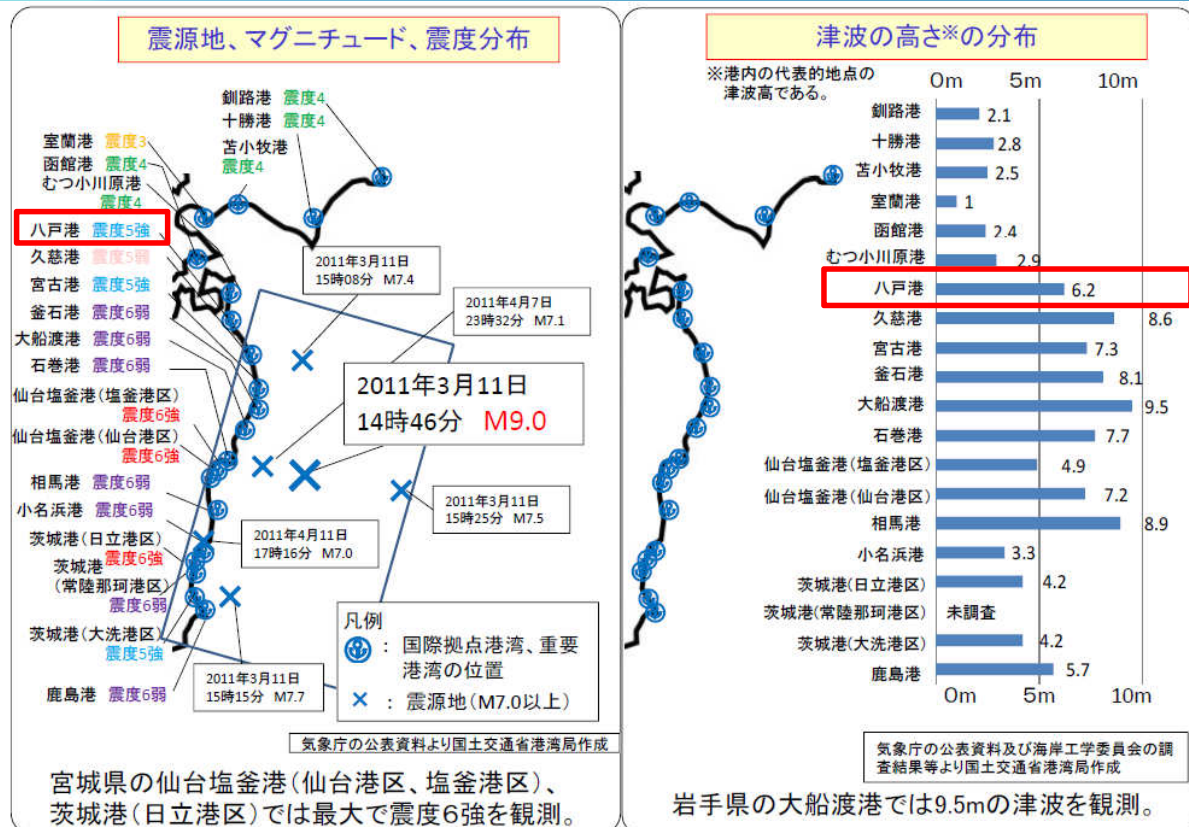


3

1. 東日本大震災からの復興に向けた取組

4

東日本大震災—震度分布と津波の高さ



出典: 国土交通省 交通政策審議会 第41回港湾分科会資料

5

八戸市の被害状況①



- ① 沿岸部を中心に、死傷者や多くの住宅被害
- ② 八戸港の物流拠点機能の麻痺
- ③ 八戸漁港の生産・流通機能の麻痺
- ④ 臨海部立地企業群の生産活動停止
- ⑤ いちご産地である市川地区を中心に、農地や栽培施設の被害



館鼻岸壁



ハサップ対応型荷捌き施設A棟



市川地区



八太郎2号埠頭国際物流ターミナル入口

6

八戸市の被害状況②



八戸市内の浸水区域



●人的被害

死者 1 人
行方不明者 1 人

●被害総額

1,212億円

- うち建物被害(家屋等)
- 商工関係(臨海部の企業群等)
- 農林関係(水田、いちご栽培用パイプハウス等)
- 水産関係(漁船、魚市場施設等)
- 観光関係(種差海岸遊歩道等)
- 社会福祉関係(保育園等)
- 建設関係(八太郎北防波堤ほか港湾施設等)
- 文化教育関係(小中学校、給食センター等)
- その他の公共施設(環境クリーンセンター等)
- (※H24年度八戸市一般会計当初予算・通常分)

28億円
567億円
15億円
168億円
1億円
2億円
413億円
4億円
15億円
(824億円)

●半壊以上の家屋被害(H24.8.31現在)

2,024棟

- うち住家被害 計
- (内訳) 全壊
- 大規模半壊・半壊

878棟
254棟
624棟

八戸市復興計画の策定



計画策定の趣旨

復旧

大きな被害を受けた地域の
社会的機能、社会経済活動の
迅速な復旧を図る

復興

大震災の経験・教訓を生かした
更なる災害に強いまちづくり
に向けて計画的な復興を目指す

八戸市
復興計画

平成23年9月26日
策定

計画期間

八戸市復興計画 H23～32(10か年)

復旧期

H23～24
(2年)

再生期

H25～27
(3年)

創造期

H28～32
(5年)

八戸市の
復興



1 被災者の生活再建

- 災害公営住宅整備事業（62戸）
- 被災者住宅再建支援事業（建設費・リフォーム費等助成及び利子補給）
- 県外被災者一時入居受入事業
- 緊急雇用創出事業
- 災害廃棄物処理事業 等

2 地域経済の再興

- 水産物流通機能高度化対策事業（荷捌き施設B棟既存分の改築など）
- 被災漁協種苗（ウニ・アワビ）放流支援事業
- あおもり生業づくり復興特区推進事業
- 被災中小企業者金融支援事業（利子補給及び保証料補助）
- 被災園芸施設復旧等緊急支援事業
- 種差海岸三陸復興国立公園指定促進事業（蕪島地区整備事業など）
- 観光復興PR事業（はちのへ観光復興委員会創立など） 等



3 都市基盤の再建

- 避難道路等整備事業
- 馬淵川河川防災ステーション建設事業
- 災害時公共交通計画策定事業
- 市営バス災害時対応力強化事業（車載無線機設置等） 等

4 防災力の強化

- 津波ハザードマップ改訂事業
- 避難所機能強化推進事業
- 多賀地区復興まちづくり計画策定事業
- 津波避難施設整備計画策定事業
- 小中野公民館防災拠点施設整備事業
- 外国人用ほっとスルメール（緊急情報）配信事業
- 自主防災組織育成助成事業
- 「元氣な八戸づくり」市民奨励金・災害に強い地域づくり応援事業 等

計画に基づき必要となる津波避難施設・
避難路等の整備を検討

2. 未来へつながるプロジェクト

未来へつながる主要プロジェクト①

第5次八戸市総合計画後期推進計画 戦略プロジェクト

1. 地域活力の創出

- ・ 多様な産業集積 ⇒ 企業誘致の促進、貿易の振興
- ・ 攻めの農業の推進 ⇒ 農業新ブランド育成、畜産業振興
- ・ 八戸港の可能性 ⇒ LNG輸入基地、地球深部探査船「ちきゅう」八戸沖掘削
- ・ 水産業の振興 ⇒ ハサップ対応型魚市場の整備
- ・ 八戸の魅力発信 ⇒ 「フィールドミュージアム八戸」構想、種差海岸国立公園編入
- ・ 産学官民連携 ⇒ 創業・起業希望者支援、八戸市都市研究検討会
- ・ 雇用支援の充実 ⇒ 八戸市雇用創出戦略ビジョン、無料職業紹介所

2. まちの魅力創造

- ・ 中心市街地の再生 ⇒ 八戸ポータルミュージアム「はっち」
- ・ 文化の継承・創造 ⇒ 八戸市埋蔵文化財センター「是川縄文館」、南郷アートプロジェクト
- ・ スポーツ活動の振興 ⇒ 地域スポーツの振興、県立屋内スケート場建設事業
- ・ 環境問題への対応 ⇒ 住宅用太陽光発電システム導入支援、路線バス上限運賃化実証実験

第5次八戸市総合計画後期推進計画 戦略プロジェクト

3. 地域の安心確立

- ・子育て支援の充実 ⇒ 「こどもはっち」、ファミリーサポートセンター事業
- ・高齢者の自立支援 ⇒ シニアはつらつポイント事業
- ・暮らしの安心・安全確保 ⇒ 生活再建相談事業、安全・安心情報配信サービス（ほっとスルメール）
- ・救急医療体制の充実 ⇒ ドクターヘリ・ドクターカー

4. 自治力の向上

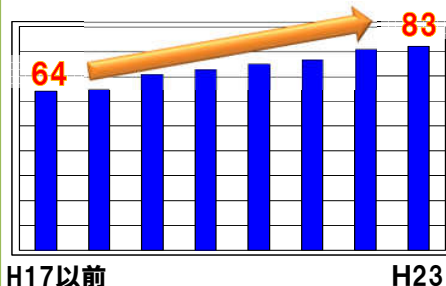
- ・協働のまちづくりの推進 ⇒ 「元気な八戸づくり」市民奨励金事業、八戸市連合町内会連絡協議会支援事業
- ・市民への情報提供・市民の参画機会の拡大 ⇒ メールマガジンの配信、はちのへ青年倶楽部カダリスト
- ・広域連携の推進 ⇒ 八戸圏域定住自立圏、三圏域連携懇談会

進む多様な産業集積



●企業誘致の促進

H17.11の就任以来、19件誘致



●飼料需要増加への対応

- サイロ増設
 - ・八戸臨港倉庫
 - ・東北グリーンターミナル
- 飼料専用設備建設
 - ・北日本くみあい飼料

⇒ 飼料供給の拠点

●八戸LNG輸入基地の概要

敷地面積：11.4万m²（将来用地含む）

主要設備：LNGタンク14万KL 2基

LNG外航船受入設備

LNG内航船出荷設備

天然ガス気化設備

タンクローリー出荷設備

運転開始：2015年度

⇒ 北日本のエネルギー供給拠点

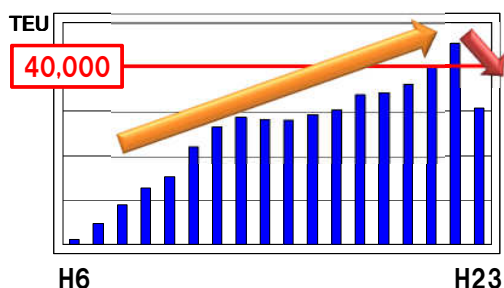


●北東北の経済活動を支える物流拠点

- 中国・韓国航路(南星海運(株))
- 北米航路(WSL社)
- 内航フィーダー航路
 - ・(株)横浜コンテナライン(横浜-仙台-宮古-**八戸**-苫小牧-横浜)
 - ・井本商運(株)(苫小牧-**八戸**-東京・横浜)
 - ・鈴木海運(株)(**八戸**-仙台-東京-横浜-清水-横浜-**八戸**)



●八戸港コンテナ貨物取扱量

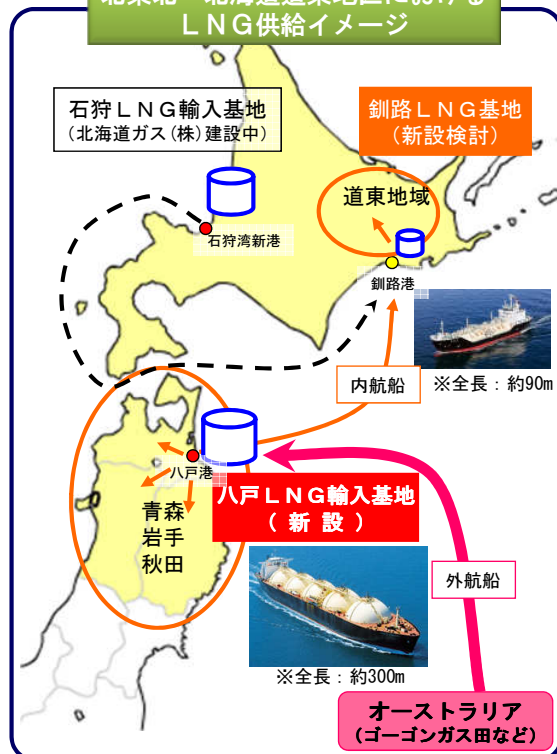


- H22年取扱量は45,430TEUと、過去最高を記録
- H23年取扱量は30,846TEUと、震災の影響で前年比の約3割減
- しかし、H23年後半から持ち直しの動きが見られるなど、今後さらなる増加が期待される



LNG輸入基地計画の推進

北東北・北海道道東地区におけるLNG供給イメージ



LNG輸入基地の設備イメージ



LNG外航船受入桟橋

船内・タンク内は
-162℃に保たれている



LNG貯蔵タンク



ローディングアーム



(財)天然ガス導入促進センター、水島LNG(株)HPより

地球深部探査船「ちきゅう」の八戸沖掘削

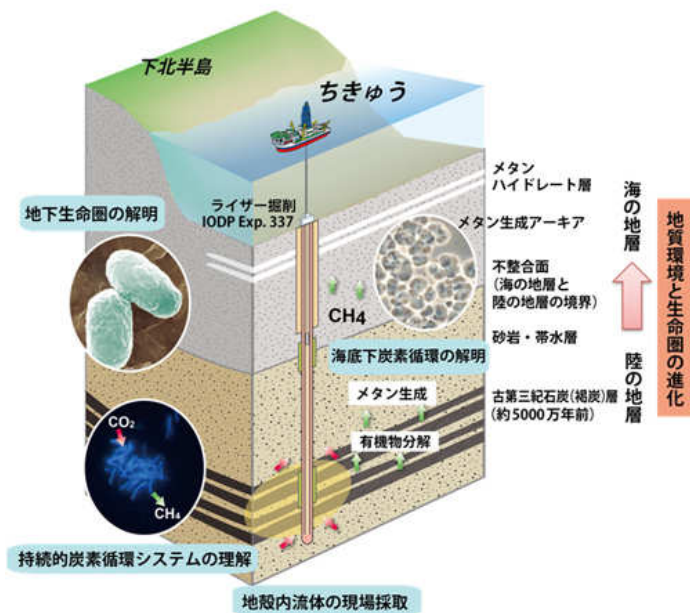
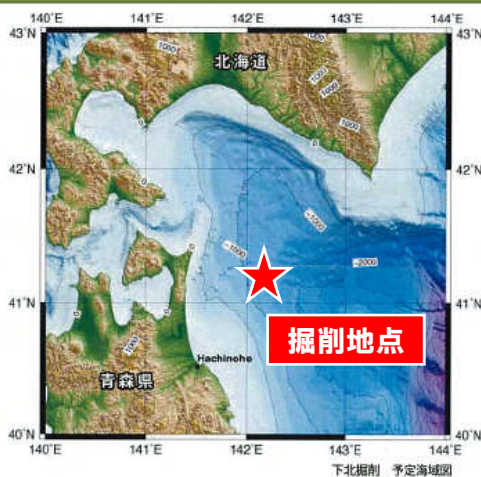


- ▶ 海底下2,200mまで掘削し、地球環境変動、地球内部構造、地殻内生命圏等の解明に挑む
- ▶ 微生物による二酸化炭素からメタンへの変換作用 ⇒ エネルギー・環境問題の劇的改善可能性

◆ 研究テーマ

- 海底下の微生物と資源層の相互作用
- 海底下の流体・物質移動
- 二酸化炭素貯留計画へ向けての評価

◆ 掘削地点



17

ハサップ対応型魚市場の整備



- 産地市場機能の集約と漁船漁業改革の連携による生産・流通の効率化
- 品質・衛生管理の高度化による国際競争力の強化

抜本的な再構築が必要！

『水産物流通機能高度化対策事業』
八戸漁港の流通構造改革拠点漁港整備事業の
基本計画が水産庁から承認(H20年2月)



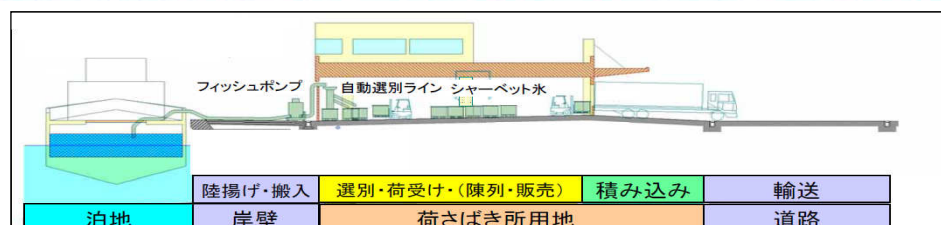
A棟(新築)

大中型まき網漁業
※H24年10月から
試験運用中



A棟イメージ

(基本計画概要から抜粋)



18

「フィールドミュージアム八戸」構想



19

(仮称) 三陸復興国立公園



- 環境省は平成22年10月、国立・国定公園の新規指定、大幅拡張の対象となり得る候補地として全国18地域を選定し、種差海岸も候補地の1つとなっていた。
- 東日本大震災を受け、平成23年5月、**三陸復興国立公園(仮称)**として再編することを発表。

①水産振興に役立つ里地・里海型の国立公園

②長距離歩道と復興のシンボルとなる森づくり

③被災を記録・継承するための学びの場

！ 三陸復興国立公園(仮称)の北の玄関口にふさわしい環境整備の実現！



燕島



種差海岸(芝生地)

東北地方太平洋岸の自然公園



20

新たな交流と創造の拠点はっち



所在地 八戸市三日町地内
敷地面積 約3,387㎡
建築面積 約1,653㎡
主体構造 鉄筋コンクリート造
(免震構造)
階数 地上5階
最高高さ 約24m

八戸ポータルミュージアム「はっち」は地域の資源を大事に想いながら新しい魅力を創り出すところ。まちづくり、文化芸術、観光、ものづくり、子育てを軸とした活動をサポートする多様な設備を備えています。



共同スタジオ(5F)



平成24年2月11日

来館者数

888,888人 !!



こどもはっち(4F)



シアター2(2F)



はっちひろば(1F)

まちを元気にするプロジェクト



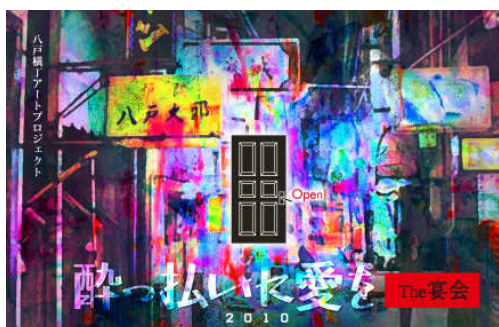
八戸レビュー



八戸のうわさ



酔っぱらいに愛を



ヨコヲちゃんを探せ！



まちを元気にするプロジェクト



みんなの日々、
みんなの街、
みんなの生きる

八戸レビュー

八戸市民
梅 佳代
浅田 政志
津藤 秀雄
木村 友祐
佐藤 尚之



プロジェクト「八戸レビュー」は
2012 グッドデザイン賞を受賞！

 **GOOD DESIGN AWARD**

「八戸レビュー」
平成23年7月
全国発売！

23

南郷アートプロジェクト



1. 南郷アートプロジェクトとは

南郷の日常生活の中に「アート」を。

身体がオドル

心がオドル

あなたとオドル



2. 展開方法

平成23年度 「アートの種まき、アーティストに出会う」

「種まきの年」と位置づけ、地域の方々がアーティストに興味を持ったり、「アート」の力を実感していただける契機となるよう、「ダンス」を使って南郷の地域資源である「ジャズ」を新しい切り口でとらえ、創造する試みを行う。また、滞在アーティストの創作活動を通じ、地域の方々が、アーティストや、創造のプロセスと出会う機会をつくる。

平成24年度 「アーティストと関わる、協働する」

アーティストとの協働創作を通じて、地域の方々にアーティストと関わることの面白さを知っていただき、日常のあらゆる場面で創造的な活動が自発的・多発的に行われていくような地域となるよう、「アート」で地域に根ざした創作活動を展開する。また、アートプロジェクトの運営を、市民主体で行う体制づくりを進める。

24

南郷アートプロジェクト



～南郷アートプロジェクト2012 コミュニティプロジェクト～
神楽×ダンス「ショーメン ～島守神楽バージョン～」

後援：伊豆市、心げき、島守たてまつり
南郷アートプロジェクト



Co.山田うん
(ダンスカンパニー)



島守神楽保存会

25

埋蔵文化財センター 是川縄文館



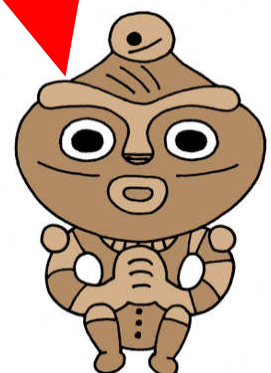
◇建物の特徴

- 建物外観は、「縄文時代の竪穴住居」や「漆の黒と赤」をイメージしたデザイン。
- 建物の中心に、イベントにも活用できる**アトリウム空間(吹き抜け)**を配置し、解放感あふれる空間を創出。

2011年7月10日OPEN

◇事業計画の基本方針

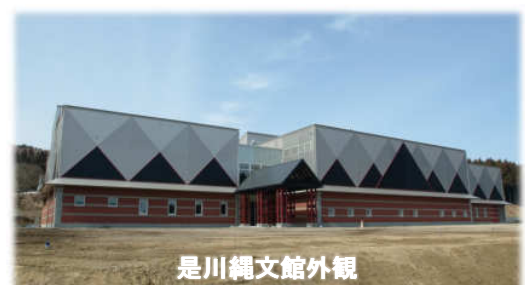
- 是川遺跡や風張1遺跡などを通して、**東北地方の優れた縄文文化を発信**する。
- 市内の埋蔵文化財の調査・研究及び出土文化財の整理・収蔵を行うとともに、発掘調査記録などの積極的な公開活用と適切な保存管理を図る。



マスコットキャラクター
「いのるん」

◇施設の概要

建設地	八戸市大字是川字横山 1
規模	建築面積：2, 603㎡ 延床面積：4, 594㎡
構造	1階：鉄筋コンクリート造 2階：鉄骨造
駐車場	普通車：約90台、大型バス：6台 障がい者用：3台



是川縄文館外観

26

◇展示の特徴

- 常設展示室は、①縄文の世界をイメージさせる「イマージョンシアター」、②縄文の美しさを感覚的に伝える「縄文の美」コーナー、③是川遺跡の発掘・研究成果を解説する「縄文の謎」コーナーで構成
- 風張遺跡出土の国宝「合掌土偶」が象徴的に展示され、縄文の精神世界を体感



常設展示



アトリウム空間
(吹き抜け)



企画展示



国宝「合掌土偶」



調査研究

ドクターヘリ・ドクターカー

平成21年3月25日 ドクターヘリ運航開始

- 福島県立医科大学附属病院に次いで**東北2機目**
※23年度：秋田県／24年度：岩手県 運航開始

- 平成23年4月から、青森県立中央病院との
共同分担運航

⇒ **平成24年10月1日から県内2機
体制での運航を開始**

- 出動要請 2機累計 **1,552件** (H24.10月末現在)

平成22年3月29日 ドクターカー運行開始

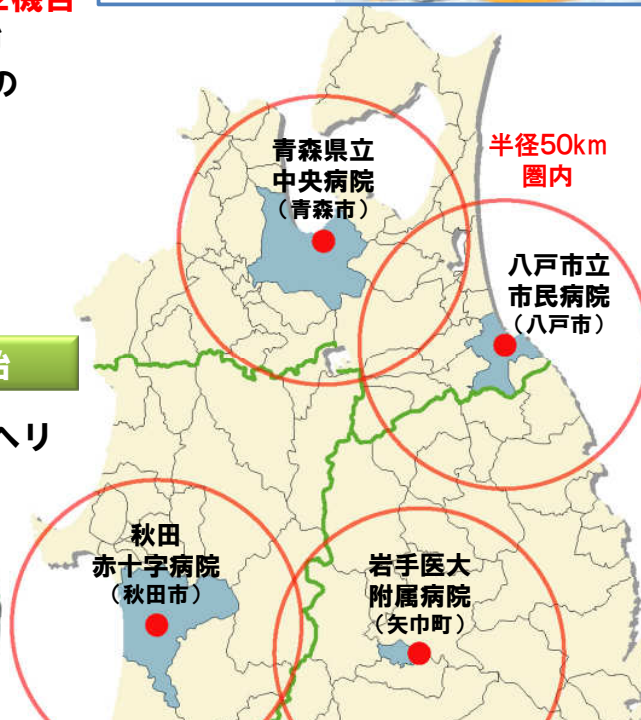
- 夜間や悪天候時に出勤できないドクターヘリ
を補完する目的で導入

- 事業主体は八戸圏域定住自立圏
(八戸市、三戸町、五戸町、田子町、南部町、
階上町、新郷村、おいらせ町)

- 出動要請 累計 **2,197件**
(H24.10月末現在)



北東北3県の
ドクターヘリ基地病院



路線バス上限運賃化実証実験



2011年

10月1日

バスの運賃が変わります!!

環境にやさしい、新しいバス生活はもう!!



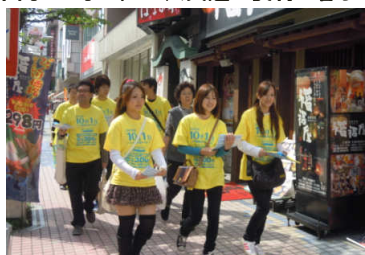
バスを使って
もっと便利に
さらに
お得に!!

- 超高齢社会の到来・地球温暖化・中心市街地の活力低下等を背景に、公共交通(バス交通)の果たす役割は今後益々増大
- 八戸圏域8市町村が定住自立圏を形成する上で、バス交通は圏域内の定住・交流のために不可欠な『社会活動の基盤』



圏域住民の“**広域的な活動・交流を促進**”するため、圏域内の複数市町村を跨ぐ広域バス路線(南部バス・十鉄バス)の運賃を、**初乗り150円・50円刻み・上限500円**に改定する実証実験を実施 (平成23年10月1日から概ね2年間)

お得で分かりやすい運賃体系の実現により、学生・高齢者等の移動制約者をはじめ幅広い層の利用を取り込み、持続可能な公共交通システムへの転換を図るとともに、「公共交通で便利に暮らせる“八戸圏域”」をアピール



単に運賃改定を行うだけでなく、街頭パフォーマンスや当市出身お笑いコンビ「あどばる一ん」出演番組による多角的な広報戦略も実践

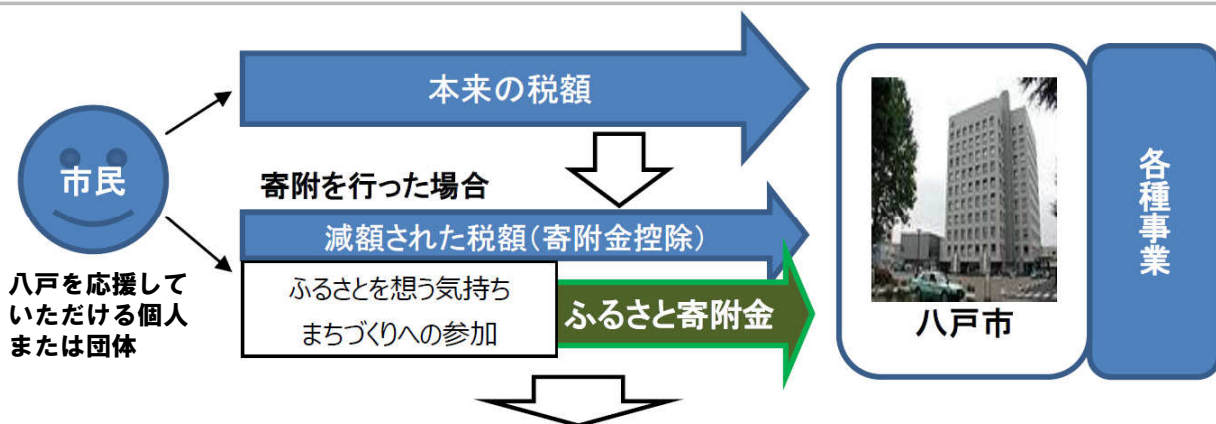
- 広域路線の運賃改定とあわせて、市内路線(市営・南部・十鉄)の300円上限化も実施!
- 中心市街地の活性化・周遊性向上も視野に、中心街一日乗車券『まちパス300』も発行!

29

ふるさとと寄附金に御協力を!



ふるさとと寄附金は、「ふるさと八戸市」を応援したいというお気持ちをお持ちの方々から御寄附をいただく制度です。「ふるさと八戸市」へ、皆様の応援をお待ちしております。



ふるさとと寄附金で「ふるさと八戸」が元気に

※毎年12月31日までにを行った御寄附について、所得税の確定申告をすることにより、翌年度の住民税からも、一定限度まで税額控除が受けられます。詳しくは、本日お配りしているパンフレットをご覧ください。

30



**八戸市をこれからも
応援よろしくお願いいたします**